

看護基礎教育のあり方に関する 私見(メモ)

2008. 6. 2

0. 問題検討のフレームワーク

○基本的考え方

(1) 需要・供給両面からのアプローチの必要性

(2) 時間軸設定の必要性

(3) PDCAサイクル設定の必要性

1. 需要・供給両面からのアプローチ

(1) 需要面

- (最終需要)患者、一般国民の立場から、看護に何を期待するか
 - (雇用需要)医療機関、保険者、行政等の立場から、看護に何を期待するか
- (質量両面で)現在の看護に欠けているものは何か
看護基礎教育のどこが問題か

(2) 供給面

○(看護サービスの提供)

- ・医療の高度化、少子高齢化、人々の価値観の変化、医療制度改革等の中で、提供する看護の内容(変化)をどう考えるか
- ・参考資料(第27回日本看護科学学会・学術集会特別講演)

○(看護職員の確保)

- ・少子化、高学歴化、男女共同参画社会等の中で、
質量両面での看護職員の確保をどう考えるか
- ・優秀な「看護学生」の確保と、充実した魅力ある
看護基礎教育の実施
- ・「大量生産・大量消費」の構造からの脱却
→大量の「潜在看護職員」問題

2. 時間軸の設定

○どの程度の「**中長期**」を見通すか

- ・少子高齢化の進行、人口構造変化との関連

→「高齢化のピーク」論等

- ・医療制度改革等との整合性

→2006年医療制度構造改革では、2025年度
が想定目標年度

- ・教育の安定性、継続性という観点

3. PDCAサイクルの設定

○Plan

- ・改革の基本的構造

- 政策目的と政策手段の整合性、エビデンス
看護基礎教育で対応すべき課題の限定

- (卒後研修、看護業務範囲見直し等関連分野)

○Do

- ・具体的改革の実行プロセス

- (段階的)実施手順、実施主体の権限と責務、
促進策、経過措置等

○Check

- 政策評価の視点、測定指標の設定
 - You cannot improve what you cannot measure.
- 評価主体
- 評価時点

○Action

- 「無謬性神話」、「責任追及第一主義」からの脱却
 - 過ちを改めるに憚る事なかれ